

概要

地球にやさしいまち・経済・ライフスタイルを目指して
京都市地球温暖化対策計画 <2011～2020>

論:論点該当箇所 ☆:時点修正想定箇所

序章 環境共生と低炭素のまち・京都

1章 計画策定の背景

(1) 地球温暖化問題とは

- ☆(2) 国際的動向
- ☆(3) 国内の動向

2章 京都市の地球温暖化対策

- ☆(1) これまでの経緯
- (2) 旧計画の総括
- ☆(3) 京都市における温室効果ガス排出量の状況
- (4) 京都市の地域特性

3章 計画の基本的事項

- ☆(1) 位置付け
- ☆(2) 他の関連計画との関係
- (3) 計画期間・対象ガス・削減目標

4章 計画の特徴

- (1) 6つの社会像の提示
- (2) 各主体の役割
- (3) 削減効果指標による施策の進行管理
- (4) 戦略プロジェクトの推進

5章 計画で掲げる施策・ロードマップ

6章 計画の進行管理

- ☆(1) 推進体制
- (2) 施策の進行管理

<2030(平成42)年度の低炭素社会像>

- 社会像1 人と公共交通優先の歩いて楽しいまち
- 社会像2 森を再生し「木の文化」を大切にするまち
- 社会像3 エネルギー創出・地域循環のまち
- 社会像4 環境にやさしいライフスタイル
- 社会像5 環境にやさしい経済活動
- 社会像6 ごみの減量

※ 社会像ごとに、目指すべき社会像の説明及び削減効果指標を提示

① 計画期間

2011(平成23)年度から2020(平成32)年度までの10年間
※ 社会経済情勢の変化などを踏まえて、5年を目途に見直しを検討する。

論1② 削減目標

京都市域からの温室効果ガス排出量を、「2020(平成32)年度までに、1990(平成2)年度比で25%削減する。」

① 2030(平成42)年度の二酸化炭素将来推計(バックキャスト方式)

論2② 削減効果指標の設定

論2③ 2020(平成32)年度の二酸化炭素将来推計(フォアキャスト方式)

戦略Ⅰ 温室効果ガスを排出しない都市構造への転換

- ① 歩くまち・低炭素都市づくりプロジェクト
 - ・「歩くまち・京都」総合交通戦略の推進
 - ・京都らしいエコ・コンパクトな都市づくりの推進
 - ・森林の適切な保全と地域産木材の活用

戦略Ⅱ 環境と経済が融合する社会システムの構築

- ② グリーンエコノミー創出プロジェクト
 - 論5・グリーン・イノベーションの推進
 - 論3・スマート・コミュニティの構築
 - ・環境価値の「見える化」

戦略Ⅲ 環境にやさしいライフスタイルへ

- ③ エコライフ・コミュニティ創出プロジェクト
 - 論4・地域からのエコライフの発信
 - ・新たなエコスタイルの提案
 - ・循環型社会システムの構築

※ 各推進方針のもとに具体的施策(41)、そのもとに具体的取組(118)を掲載し、具体的取組ごとに10年の工程を設定

社会像1 人と公共交通優先の歩いて楽しいまち

推進方針

- ・「既存公共交通」の取組(既存公共交通の利便性向上)
- ・「まちづくり」の取組(歩行者優先のまちづくり)
- ・「ライフスタイル」の取組(歩いて楽しい暮らしを大切にするライフスタイルへの転換)
- ・エコカーへの転換

社会像2 森を再生し「木の文化」を大切にするまち

推進方針

- ・地域産木材の活用
- ・森林の適切な保全
- ・水と緑と風を生かしたまちづくり

社会像3 エネルギー創出・地域循環のまち

推進方針

- 論3・再生可能エネルギーの導入拡大
- 論3・地域におけるエネルギーマネジメント

社会像4 環境にやさしいライフスタイル

推進方針

- 論6・エコ生活の普及促進
- 論4・地域コミュニティにおけるエコ活動の促進
- 論4・環境に配慮した住宅の普及促進

社会像5 環境にやさしい経済活動

推進方針

- 論5・環境産業の振興・育成
- 論4・企業における低炭素化の促進
 - ・環境価値の創出・循環

社会像6 ごみの減量

推進方針

- ・そもそもごみを出さない
- ・ごみは資源、可能な限りリサイクル
- ・ごみは安全に処理して最大限活用